



平成27年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年10月15日

上場会社名 松竹 株式会社 上場取引所 東 札 福
 コード番号 9601 URL http://www.shochiku.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 迫本 淳一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 関根 康 TEL 03-5550-1699
 四半期報告書提出予定日 平成26年10月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年2月期第2四半期の連結業績（平成26年3月1日～平成26年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第2四半期	47,793	3.2	5,006	△9.8	4,367	△6.8	2,975	0.6
26年2月期第2四半期	46,315	18.8	5,552	182.8	4,687	281.3	2,957	193.1

(注) 包括利益 27年2月期第2四半期 4,292百万円 (5.7%) 26年2月期第2四半期 4,061百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年2月期第2四半期	21.64	—
26年2月期第2四半期	21.53	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年2月期第2四半期	198,687	73,247	36.8	532.45
26年2月期	203,742	69,517	34.1	505.32

(参考) 自己資本 27年2月期第2四半期 73,195百万円 26年2月期 69,470百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年2月期	—	0.00	—	4.00	4.00
27年2月期	—	0.00	—	—	—
27年2月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成27年2月期の連結業績予想（平成26年3月1日～平成27年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	90,270	1.5	6,490	△24.6	5,340	△17.8	3,330	62.3	24.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー 社（社名） 、除外 ー 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年2月期2Q	139,378,578株	26年2月期	139,378,578株
② 期末自己株式数	27年2月期2Q	1,909,875株	26年2月期	1,899,920株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年2月期2Q	137,474,213株	26年2月期2Q	137,360,401株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益や雇用情勢が改善したものの、消費税率引上げの影響を受ける中、4月から6月期のGDP速報値は6ヶ月ぶりのマイナスとなり、駆け込み需要の反動に加え海外景気の下振れの影響等により、引き続き不透明な状況のまま推移しました。

このような状況下、当企業グループはより一層の経営の効率化を図り、積極的な営業活動を展開しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間は、売上高47,793百万円(前年同期比3.2%増)、営業利益5,006百万円(同9.8%減)、経常利益4,367百万円(同6.8%減)となり、特別利益470百万円、特別損失15百万円を計上し、四半期純利益は2,975百万円(同0.6%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

映像関連事業におきましては、邦画6本、洋画2本、アニメ2本、シネマ歌舞伎、METライブビューイングとバラエティに富んだ作品を公開しました。3月に公開の「白ゆき姫殺人事件」は、豪華キャストによるゴシップエンタテインメントとして話題を呼びました。6月に公開したジョニー・デップ主演の「トランセンデンス」は厳しい結果となりましたが、同じく6月に公開の「超高速！参勤交代」は、そのユニークなタイトルと物語の奇想天外な発想の面白さから注目を集めヒットとなりました。続いて7月に公開した「好きっていいなよ。」は10代女性を中心に高稼働しました。8月公開の「ホットロード」は、今最も旬なキャストと伝説的な少女コミックの原作により幅広い層の観客を獲得し、収益に貢献しました。その他、アニメ作品では、5月公開「機動戦士ガンダムUC episode 7ー虹の彼方にー」が好調に推移しました。

興行は、消費税率引上げによる大きな影響もなく、「アナと雪の女王」の大ヒットにより4月から6月の興行が好調で、邦画、洋画、アニメーション、ODS等、幅広いラインナップの興行を行いました。

テレビ制作は、シリーズ9作目となる「天才刑事 野呂盆六IX」、北大路欣也主演のシリーズ3作目「剣客商売 鬼熊居酒屋」、水谷豊が喜多川歌麿に扮する時代ミステリー第4弾「だましゑ歌麿IV」、BSで連続時代劇「神谷玄次郎捕物控」(全5話)、「妻は、くノ一〜最終章〜」(全5話)等11番組を受注制作しました。

映像ソフト、テレビ放映権販売、海外向け作品販売等は堅調に推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は26,366百万円(前年同期比9.7%増)、セグメント利益は2,339百万円(同88.3%増)となりました。

(演劇事業)

演劇事業におきましては、歌舞伎座は、新開場一周年と、松竹の歌舞伎座経営百年を記念した「鳳凰祭」大歌舞伎公演を3月、4月に行い活況を呈しました。その他、十二世市川團十郎一年祭「團菊祭五月大歌舞伎」、「八月納涼歌舞伎」等、話題の舞台が続きました。

新橋演舞場は、3月は市川猿之助と佐々木蔵之介の出演によるスーパー歌舞伎II(セカンド)「空ヲ刻ム者ー若き仏師の物語ー」が大盛況となりました。その他、4月から5月にかけて「滝沢歌舞伎2014」、7月に松竹新喜劇16年ぶりの新橋演舞場公演となる劇団創立六十五周年記念「松竹新喜劇爆笑七夕公演」等、バラエティに富んだ公演となりました。

大阪松竹座は、4月のスーパー歌舞伎II(セカンド)「空ヲ刻ム者ー若き仏師の物語ー」と6月の藤山直美主演の「母をたずねて膝栗毛」は、新橋演舞場での盛況を受けての上演で、大阪松竹座でも大好評の公演となりました。関西ジャニーズJr.公演は、恒例の3月、8月に加え、ジャニーズWESTデビュー記念公演が安定した収益を上げました。また、「七月大歌舞伎」は多彩な演目でお客様の感動を呼び、収益に貢献しました。

南座は、4月の「歌舞伎ミュージアム」は、昨年に引き続き南座の舞台機構をお客様が体験する趣向が好評となりました。6月の「坂東玉三郎特別舞踊公演」では、前半は「組踊と琉球舞踊」、後半は「地唄三題」と趣向を凝らした演目でお客様を魅了し、「八月喜劇夏祭り」では藤山直美、田村亮を中心に歌舞伎、松竹新喜劇、新派の多彩な面々で松竹新喜劇の名作を上演いたしました。

その他の松竹公演は、コクーン歌舞伎二十周年を迎えたシアターコクーンでは、「三人吉三」を中村勘九郎、中村七之助、尾上松也というフレッシュな顔ぶれで上演し、エネルギッシュな舞台が話題を呼び、大好評となりました。三越劇場にて、「納涼新派公演」は、「螢」「江戸みやげ狐狸狸ばなし」といった趣向の異なる二作品の上演が好評でした。青山劇場では、少女漫画の名作「ガラスの仮面」を上演、大劇場では26年ぶりとなる舞台化で話題を呼びました。受託製作では、「明治座五月花形歌舞伎」にて、夜の部「伊達の十役」は市川染五郎が大奮闘し話題の舞台となりました。博多座の開場十五周年を記念した「六月博多座大歌舞伎」は、坂田藤十郎をはじめとした豪華な顔ぶれにより、古典の名作を中心とした魅力的な舞台となりました。シネマ歌舞伎、METライブビューイング、その他演劇関連事業は、堅調に推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は13,326百万円(前年同期比14.1%減)、セグメント利益は1,687百万円(同59.0%減)となりました。

(不動産事業)

不動産賃貸は、歌舞伎座タワー、築地松竹ビル（銀座松竹スクエア）、新宿松竹会館、有楽町センタービル（マリオン）、松竹倶楽部ビル、大船の松竹ショッピングセンター、新木場倉庫などが順調に推移し、安定収入に貢献しました。歌舞伎座タワーはリーシング100%を達成し、築地松竹ビルでは、大型テナントの企業が今夏に退出しましたが、精力的なテナント誘致を実施し、後継テナントが100%内定しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,209百万円（前年同期比28.7%増）、セグメント利益は2,000百万円（同67.1%増）となりました。

(その他)

プログラム・キャラクター商品は、「劇場版TIGER&BUNNY－The Rising－」「機動戦士ガンダムUC episode 7－虹の彼方に－」「THE NEXT GENERATION－バトレイベー－」等、コアファンを有する作品の売上が好調で、「超高速！参勤交代」「ホットロード」などの自社配給作に加え、「るろうに剣心 京都大火編」といった邦画作品の売上も好調に推移しました。

イベント事業は、関東の遊園地にて「ポリショイサーカス」を開催しました。また、新たなイベントコンテンツとして海外人気キャラクター「ペネロペ」の世界を紹介する「ペネロペプレイランド」を都内百貨店で開催しました。また、2011年オープン以来好調な「松竹歌舞伎屋本舗」は上期も好調で、通販大手Amazonへの出店にも着手しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,891百万円（前年同期比6.3%増）、セグメント利益は308百万円（同9.9%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ5,055百万円減少し、198,687百万円となりました。これは主に投資有価証券が増加したものの、現金及び預金の減少等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ8,786百万円減少し、125,439百万円となりました。これは主に長期借入金（責任財産限定）が増加したものの、1年内返済予定の長期借入金（責任財産限定）及び1年内償還予定の社債（責任財産限定）の減少等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ3,730百万円増加し、73,247百万円となりました。これは主に利益剰余金及びその他有価証券評価差額金の増加等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月期の連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、平成26年4月14日付「平成26年2月期決算短信」にて発表いたしました通期の業績予想を修正しております。詳細は平成26年10月10日に開示いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,163,208	11,983,997
現金及び預金（責任財産限定対象）	10,126,807	8,378,787
信託預金（責任財産限定対象）	4,721,705	5,727,629
受取手形及び売掛金	6,096,496	8,453,637
有価証券	300,000	300,000
商品及び製品	1,536,427	1,561,392
仕掛品	1,564,342	1,952,343
原材料及び貯蔵品	77,039	81,015
その他	3,360,042	3,356,301
貸倒引当金	△17,664	△41,808
流動資産合計	47,928,403	41,753,297
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	19,516,253	19,092,021
建物及び構築物（責任財産限定対象）（純額）	21,814,242	21,384,887
信託建物（責任財産限定対象）（純額）	12,206,259	11,868,809
設備（純額）	11,948,831	11,300,606
土地	21,995,920	21,995,920
信託土地（責任財産限定対象）	18,751,834	18,751,834
その他（純額）	5,765,268	5,848,389
有形固定資産合計	111,998,611	110,242,470
無形固定資産		
のれん	1,666	238
その他	2,906,430	2,914,090
無形固定資産合計	2,908,096	2,914,328
投資その他の資産		
投資有価証券	17,953,520	20,933,058
長期前払費用（責任財産限定対象）	14,078,447	13,945,455
その他	9,076,008	9,159,000
貸倒引当金	△200,301	△260,368
投資その他の資産合計	40,907,675	43,777,145
固定資産合計	155,814,383	156,933,944
資産合計	203,742,786	198,687,241

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,162,420	6,869,407
短期借入金	6,090,000	5,910,000
1年内償還予定の社債	—	1,100,000
1年内償還予定の社債(責任財産限定)	10,000,000	—
1年内返済予定の長期借入金	10,205,766	9,791,291
1年内返済予定の長期借入金(責任財産限定)	25,700,000	1,631,000
未払法人税等	1,497,282	1,842,426
賞与引当金	408,757	325,437
劇場閉鎖損失引当金	782,587	—
その他	10,868,242	10,643,242
流動負債合計	70,715,058	38,112,806
固定負債		
社債	1,100,000	—
社債(責任財産限定)	—	500,000
長期借入金	28,284,435	27,259,046
長期借入金(責任財産限定)	18,475,000	41,694,000
退職給付引当金	1,743,572	1,792,536
役員退職慰労引当金	694,982	695,723
資産除去債務	1,279,556	1,271,950
その他	11,933,107	14,113,496
固定負債合計	63,510,654	87,326,753
負債合計	134,225,712	125,439,559
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018,656	33,018,656
資本剰余金	30,135,347	30,135,347
利益剰余金	3,968,599	6,390,644
自己株式	△1,305,116	△1,314,060
株主資本合計	65,817,487	68,230,588
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,652,756	4,965,298
その他の包括利益累計額合計	3,652,756	4,965,298
少数株主持分	46,830	51,794
純資産合計	69,517,074	73,247,682
負債純資産合計	203,742,786	198,687,241

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
売上高	46,315,128	47,793,482
売上原価	25,438,142	26,800,880
売上総利益	20,876,986	20,992,601
販売費及び一般管理費	15,324,457	15,985,624
営業利益	5,552,528	5,006,977
営業外収益		
受取利息	26,610	18,959
受取配当金	167,590	148,634
還付消費税等	29,331	101,850
負ののれん償却額	2,282	2,282
持分法による投資利益	6,483	20,839
その他	93,861	48,108
営業外収益合計	326,159	340,674
営業外費用		
支払利息	889,884	663,690
借入手数料	271,279	267,554
その他	30,380	49,173
営業外費用合計	1,191,544	980,418
経常利益	4,687,143	4,367,234
特別利益		
劇場閉鎖損失引当金戻入額	—	366,587
受取和解金	—	103,514
特別利益合計	—	470,101
特別損失		
固定資産除却損	31,436	15,607
特別損失合計	31,436	15,607
税金等調整前四半期純利益	4,655,707	4,821,727
法人税、住民税及び事業税	1,134,413	1,768,484
法人税等調整額	576,020	73,230
法人税等合計	1,710,433	1,841,714
少数株主損益調整前四半期純利益	2,945,274	2,980,013
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△12,678	4,963
四半期純利益	2,957,952	2,975,049

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,945,274	2,980,013
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,114,506	1,312,318
持分法適用会社に対する持分相当額	1,443	187
その他の包括利益合計	1,115,950	1,312,506
四半期包括利益	4,061,224	4,292,520
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,073,902	4,287,556
少数株主に係る四半期包括利益	△12,678	4,963

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,655,707	4,821,727
減価償却費	2,472,946	2,559,149
のれん償却額	△853	△853
賞与引当金の増減額(△は減少)	△94,437	△83,320
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△15	48,963
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△8,229	740
劇場閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	—	△782,587
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,061	84,210
受取利息及び受取配当金	△194,200	△167,593
支払利息	889,884	663,690
持分法による投資損益(△は益)	△6,483	△20,839
受取和解金	—	△103,514
固定資産除却損	31,436	15,607
売上債権の増減額(△は増加)	△570,919	△2,357,140
たな卸資産の増減額(△は増加)	△135,860	△416,942
仕入債務の増減額(△は減少)	1,000,102	1,706,987
その他	2,577,480	712,196
小計	10,615,494	6,680,481
利息及び配当金の受取額	199,899	188,866
利息の支払額	△927,026	△706,572
法人税等の支払額	△162,068	△1,424,313
法人税等の還付額	230,317	—
和解金の受取額	—	67,613
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,956,617	4,806,075
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△272,662	△359,953
定期預金の払戻による収入	283,757	359,921
現金及び預金(責任財産限定対象)の増減額(△は増加)	△2,156,479	1,748,019
信託預金(責任財産限定対象)の増減額(△は増加)	△583,314	△1,005,924
有形固定資産の取得による支出	△1,372,662	△390,814
無形固定資産の取得による支出	△231,342	△141,401
投資有価証券の取得による支出	△40,616	△997,962
貸付けによる支出	△45,100	—
貸付金の回収による収入	119,235	995,602
その他	4,854	8,232
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,294,331	215,720

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△180,000
長期借入れによる収入	3,350,000	200,000
長期借入金の返済による支出	△1,373,845	△1,628,087
長期借入れ (責任財産限定) による収入	19,700,000	24,500,000
長期借入金 (責任財産限定) の返済による支出	△28,070,000	△25,350,000
社債 (責任財産限定) の発行による収入	—	493,658
社債 (責任財産限定) の償還による支出	—	△10,462,564
リース債務の返済による支出	△137,205	△213,716
自己株式の取得による支出	△17,800	△8,928
自己株式の売却による収入	613	—
配当金の支払額	△413,288	△551,399
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,961,525	△13,201,038
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,299,239	△8,179,242
現金及び現金同等物の期首残高	20,181,214	19,769,169
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,881,975	11,589,927

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	24,032,067	15,516,716	4,046,289	2,720,054	46,315,128	—	46,315,128
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	48,106	73,619	839,009	2,214,355	3,175,091	△3,175,091	—
計	24,080,174	15,590,336	4,885,299	4,934,410	49,490,220	△3,175,091	46,315,128
セグメント利益	1,242,775	4,112,039	1,196,941	280,521	6,832,278	△1,279,749	5,552,528

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額△1,279,749千円には、セグメント間取引消去20,608千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,300,358千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	26,366,325	13,326,363	5,209,330	2,891,462	47,793,482	—	47,793,482
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	86,767	44,371	845,962	2,337,247	3,314,348	△3,314,348	—
計	26,453,092	13,370,734	6,055,293	5,228,709	51,107,830	△3,314,348	47,793,482
セグメント利益	2,339,667	1,687,843	2,000,685	308,249	6,336,445	△1,329,468	5,006,977

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額△1,329,468千円には、セグメント間取引消去30,404千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,359,872千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。